

牛とおじいさん

熊田 恵子

福島県郡山市出身

森友紀

絵

その牛は、飼い主のおじいさんが大好きだった

細い目で嬉しそうに体をなでて、美味しいごはんを食べさせてくれた

ある日、地面が揺れた

おじいさんが見当たらない

「どこに行つたの? どこに行つたの?」と牛は鳴いた

その場所は地震で危ない場所になっていた

おじいさんは、泣きながら遠くに離れた

おじいさんは、いつ戻って来られるかわからなかった

だから、おじいさんは、牛が自分で草を食べに行けるように、離れる前に首輪を外した

牛は、草と水を求めて、初めての旅に出た

おじいさんは、牛のことを心配した

牛のことをあえて心配するようにした

それは、おじいさんは娘のことを考えないようにしたかったから

おじいさんの娘は海のそばに嫁いで住んでいた

地震で大きな波が押し寄せ、おじいさんの娘の家を壊した

そして、おじいさんの娘の家も危ない場所になった

だから、おじいさんは、娘を探しに行けなくなってしまった

「探しに行けなくてごめんね。探しに行けなくてごめんね。」とおじいさんは泣いた

まだ、おじいさんは、娘と会えていない

だから、おじいさんは、牛のことを考えるようにしていた

おじいさんには、家族がたくさんいた

だから、ずっと目を細めて、その家族を撫でてきた

家族がたくさんいるおじいさんは、心配することもたくさんあった

牛は、今日もおじいさんを探している

牛は、今日もおじいさんのことが好き